平成９年８月６日（水曜日）

第４７回全国学校新聞指導者研修会 第２日目 速報

発行所
高文連石狩支部
新聞部速報班
不許複製

八月五日、全国学校新聞指導者研修会の第二日目が始まった。九時三十分から基調報告が、九時五十分から高校新聞クリニックが行われた。高校新聞クリニックでは、札幌学院大学の武石文人氏が読まれる新聞についていろいろと話してくれた。

後輩へ技術の伝達を

武石講師による新聞診断

「こうすれば読まれる新聞に」と題した高校新聞クリニックは、武石文人氏が各校の新聞について評論し、指導にあたった新聞局顧問が感想を述べる形で進められた。

武石氏は、「伝統ある学校新聞が、発行危機の状態になっている。それは高校生の新聞離れが進んでいるためである。一人でも多くの新聞局・部員を集めるためには、新入局員が入るのを待つのではなく積極的に勧誘し、また生徒に新聞を生徒全員に認めてもらうために発行回数を増やす努力が必要である」と現在の問題点を語った。

次に札幌星園高校のパソコンで作った『星園電脳新聞』や秋田東高校の『東風新聞』や長浜商工高校の『チニタ』、都立国立高校の『国高新聞』、キリスト教愛真高校の『あい新聞』の診断が行われた。その中で、武石氏は「学校の特色が出ている新聞はとても良いが、読者にとって読みやすい新聞を作るルールを守らないと、せっかく良い内容でも、読みづらい新聞となってしまう。それをふせぐには先輩から後輩へ技術を伝えなければならない」と語った。

基調報告を行う松井孝二会長（右）

押し寄せるパソコンの波
若者のマスコミへの批判

基調報告

二日目の最初は基調報告から行われた。主な内容は「学校新聞の新しい流れ」と「子供を取り巻く情勢と学校新聞」で、「新しい流れ」については写植・活版新聞の発行の漸減、インターネットの開設やパソコン・ワープロ新聞については、様々な編集の可能ややる気を引き出すがどういう形で行うか等を述べた。

「取り巻く情勢」については、環境問題への関心の高まりによる社会問題を取り上げる高校の増加、今年のテーマの際立たなさ、身体障害者問題、女子高生の活動、いじめ問題があり、それらを取り上げる高校の増加、自分達の内心やマスコミに対しての批判を書いている新聞の目立ちを述べた。

ピーターをよろしく

札幌市民の憩いの場である大通り公園は、市内の観光名所としても名高い。その大通り公園の名物であるトウキビは、最近道内での旬を迎え、冷凍物から地物のピーターコーンに替わっている。冷凍物にはない新鮮な北海道の味を是非とも味わっていただきたい。値段は一本３００円。絶対に後悔はしないはずだ。